

令和7年度孤立集落状況把握・支援訓練 (青森県三戸町・内閣府)

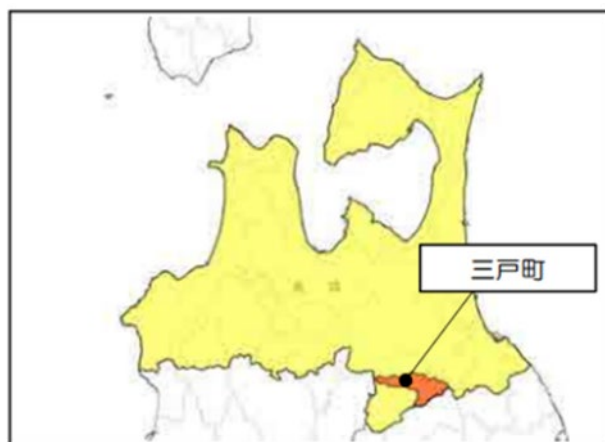
実施報告書 (概要版)

青森県三戸町について

- 青森県三戸町は、青森県の南端に位置し、南は岩手県、西は秋田県と接し、面積は約152km²である。
人口は令和8年2月時点で8,534人、高齢化率は令和6年時点で43.7%と高い水準となっている。
- 奥羽山脈の東斜面に位置することから、面積の約66%を山地が占め、集落の多くは河川流域の平坦部に展開している。
- 厳冬期は氷点下10度となる一方で、夏には最高気温が35度に達することがあり、寒暖の差が激しい。
近年は夏場の集中豪雨等により、農作物や農業用施設等がしばしば被害を受けている。

主な被害想定

- 青森県の調査により、太平洋側海溝型地震が発生した場合に最も被害が大きく、死者・負傷者が4,500人に達すると想定されている。



訓練概要

- 訓練想定：集中豪雨により、土砂災害、洪水、内水が同時に発生
- 実施日時：【孤立集落状況把握・支援訓練】令和7年12月9日（火）9:00～12:00
- 主催：三戸町
- アドバイザー：岩手県立大学防災復興支援センター 杉安和也副センター長
- 参加者数：約15名
- 参加機関：三戸町職員
- 訓練項目：地域の災害リスクの検証（町内の孤立可能性地域の検証、孤立時の初期対応や支援方法に関する検討）に係る図上訓練
- 訓練の特色：国土交通省「重ねるハザードマップ」を活用し、土砂災害と洪水、内水が同時に発生した場合に孤立するおそれのある集落を特定した。孤立が長期化する場合を見据え、救援の拠点とできる場所の選定を行った。

訓練の成果

【成果】

- 客観的データを用いて職員が自ら災害リスクを分析することができた。
- 複数の要因が重なった際に町内の孤立可能性集落が複数存在することが明らかになった。

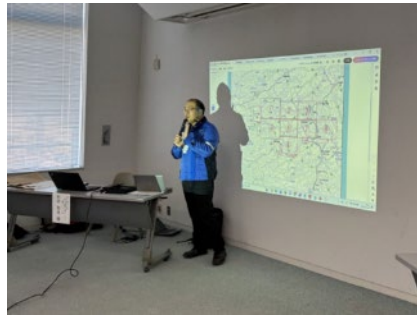
【課題】

- 町として今回得られた知識を活用して、具体的に防災対策を講じる必要がある。
- 孤立のおそれがあることが明らかになった集落については、集落側での対応状況の確認や住民参加の訓練実施等を検討する必要がある。

12月9日(火) 9:00～12:00 孤立集落状況把握・支援訓練

- 杉安アドバイザーによる、青森県内の孤立集落に関する調査結果や孤立集落となり得るリスクの認知方法、危険箇所の特定制法等に関する講話を行った。
- 講話を踏まえ、参加者はグループに分かれて「重ねるハザードマップ」を実際に参照し、杉安アドバイザーの助言を受けながら、孤立可能性集落を特定し、優先順位付けをするワークを実施した。

▼杉安アドバイザーの講話



▼講義を聴く参加者



▼訓練で使用したハザードマップや付箋等の備品



▼ハザードマップを見ながら災害リスクの高い箇所を確認する参加者



▼ハザードマップを見ながら議論する参加者

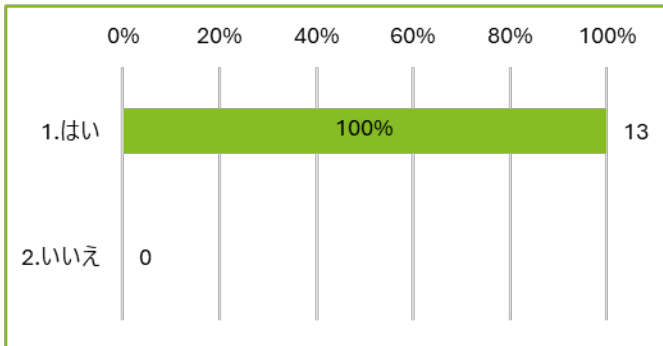


▼孤立可能性集落を特定していく参加者

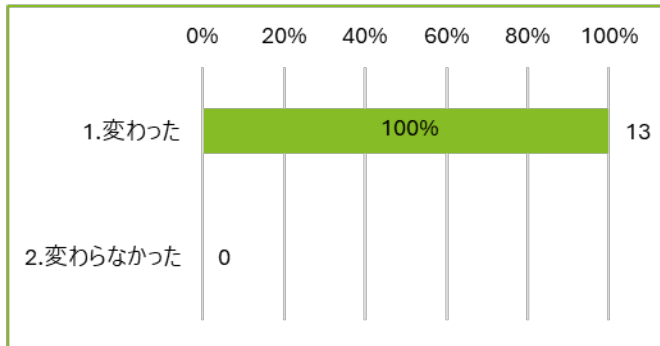


アンケート結果

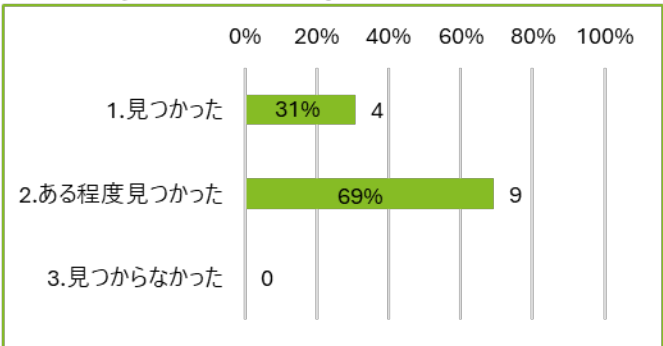
1. 本日の杉安アドバイザーの講話を通じて、地域の孤立リスクに理解が深まりましたか。



2. 本日の演習を通じて三戸町の孤立リスクについて以前と認識が変わりましたか。



3. 今回の訓練を通じて、三戸町の孤立時の課題点は見つかりましたか。



4. 今回の訓練を通じて、三戸町の孤立時の課題に対する今後の対策についてイメージできましたか。

